



浜田屋本店の瓦版 第8号

株浜田屋本店 TEL:0799-28-0330 FAX:0799-28-1556

令和元年 5月発行

～ 大切な方にお送りする情報誌 ～

◆淡路島は、天皇家の別荘地だった（高級リゾート地）◆

まいど！ 浜田屋本店の濱田です。

今回は、淡路島と天皇家のつながりをご紹介します。

淡路島は、地形上「四国」「和歌山」「瀬戸内」の海上の要として重要な地域だったため、天皇家と強いつながりがあったようです。

淡路島の「三原」という地名は、昔「御原」といわれていて、皇室の御料地という意味だそうです。その三原にある「国分寺」は、聖武（しょうむ）天皇の命で建立したもので、国指定重要文化財の「釈迦如来座像」が祭られています。古より「花まつり」の時に見る事が出来るそうです。

また、応神（おうじん）天皇（15代）、仁徳（にんとく）天皇（16代）、履中（りちゅう）天皇（17代）、反正（はんぜい）天皇（18代）、允恭（いんぎょう）天皇（19代）が、猪や鹿を狩りに来られていたと記録にあり、仁徳天皇にはわき水（御井の清水）を舟で届けていたとあります。また、仁徳天皇の子「反正天皇」は、母方の別荘地（三原町松帆）の淡路宮（あわじのみや）で生まれ、井戸水で産湯をつかったとされ、そこには「産宮（うぶのみや）神社」があり、そこが誕生地といわれています。また、淳仁（じゅんにん）天皇は、権力争いに巻き込まれて淡路島に配流され、崩御されました。それが、兵庫県で唯一の天皇陵です。このように、島のあちこちにゆかりの地があります。

今、新元号で話題の「万葉集」巻6の935には、「名寸隅(なきすみ)の 船瀬ゆ見ゆる 淡路島 松帆の浦に 朝なぎに 玉藻(たまも)刈りつつ 夕なぎに 藻塩(もしお)焼きつつ 海人娘人(あまおとめ) ありとは聞けど 見に行かむ よしのなければ ますらをの 心はなしに たわやめの 思ひたわみて たもとほり 我(あれ)はそ恋ふる 船楫(ふなかじ)をなみ」と詠まれています。

現代語に訳すと、[名寸隅の、船の泊まりから見える淡路の松帆の浦に、朝の風ぎには藻を刈って、夕べの風ぎには藻塩焼く、そんな漁師の娘がいると、聞くが見に行くすべがない、男らしい勇気がなくて、か弱い乙女のように萎え、行きつ戻りつ恋い慕う、船もなければ漕ぐ櫂(かじ)もないからどうにも仕方ない]という意味です。今では、高速艇や明石海峡大橋を渡ればすぐの場所だけど、昔の人にはとても遠い場所だったんだとしみじみ思います。

◆スタッフからの一言◆

最近、本屋で「淡路島」という淡路の店を紹介した本を購入しました。島内のお店を色々紹介していて、「淡路島にこんなに色々な店があるの？」と驚きました。意外に地元の方が知らなかったりするんですよね。美味しそうな情報につられて、早速ジェラートやシュークリームを買いに行きました。まだまだたくさんの店があるので、次は美味しそうなランチに行くつもりです。 (担当：中山)

【浜田屋本店の会社概要】

- ◆商号：浜田屋本店
- ◆設立：昭和41年1月5日（創業：明治35年）
- ◆所在地：兵庫県洲本市安乎町平安浦 1864-8
- ◆HP：<http://www.hamadaya-honten.jp/>
- ◆TEL：0799-28-0330 FAX：0799-28-1556

【社長のプロフィール】

- ◆濱田 昌宏（はまだ まさひろ）
- ◆誕生日：昭和34年3月30日
- ◆出身地：兵庫県洲本市（淡路島）
- ◆趣味：考古学、日本の超古代史研究
- ◆座右の銘：我以外人皆師

